

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

世界遺産は顕著な普遍的価値のある文化財、また後世に遺したい自然を国際的に保全していくために1978年から登録が始ったものであり、それらは観光の対象としてだけでなく、サステナブル・ツーリズム（持続可能な観光産業）としての側面を踏まえて理解を深める必要がある。講師は旅行業界に在籍中、日本国内はもとより海外の世界遺産も多数訪問した経験を踏まえて、特徴のある世界遺産の数々を観光の側面から実務色豊かに取り上げて講義を展開する。「世界遺産＋観光・宗教・歴史」といった様々な切り口の講義は、世界遺産および観光双方の知見を高めるとともに、大学生としての知識を豊かにするものとなる。

授業計画

第1回	オリエンテーション 評価方法・受講ルール、世界遺産とは？ 世界遺産誕生の歴史
第2回	世界遺産登録のプロセス、世界遺産の種類、無形文化遺産（和食・お祭り）の推薦
第3回	日本の世界遺産① 世界が認めた木造建築（姫路城、法隆寺、合掌造り集落、等）
第4回	日本の世界遺産② 欧米人の好む人気沸騰の聖地巡礼（参詣道と高野山）
第5回	日本の世界遺産③ 自然遺産：日本列島誕生の歴史と「自然遺産」5物件との関連を知る
第6回	海外の世界遺産① イギリス：植民地政策、産業革命を支えた三角貿易、登録の抹消
第7回	海外の世界遺産② イタリア：ヴェネチアの気候変動に消えゆく危機遺産
第8回	海外の世界遺産③ スペイン：バルセロナの「ガウディの建築群」、理解度小テスト①
第9回	海外の世界遺産④ イスラエル・パレスチナ：中東紛争の歴史と「世界3大宗教の聖地」の謎
第10回	海外の世界遺産⑤ アフリカ：エジプトのカイロ・ナイル川流域の古代ロマンと新たな発見
第11回	海外の世界遺産⑥ 北米大陸とアメリカの世界遺産：世界初の登録物件・雄大な自然遺産
第12回	海外の世界遺産⑦ 中南米：消えた古代文明の悲劇、スペイン・ポルトガルの占領と負の遺産
第13回	海外の世界遺産⑧ オセアニア：オーストラリアの世界遺産戦略、NZ 先住民との共生
第14回	海外の世界遺産⑨ アジアを代表するシルクロード：中国～中央アジア～イスタンブール
第15回	振り返り、理解度小テスト②、最終課題レポートの提出
第16回	試験もしくは最終レポート提出

到達目標

1. 世界遺産の知識を身に付け、それに基づき問題点や課題を指摘できるようになる。
2. 世界遺産を含む観光促進に向けて、その方法を構想、立案することができる。
3. 世界遺産と宗教・民族・各国の歴史との関係性を習得し、学士として体系的に説明ができるようになる。

履修上の注意

- ・授業計画は変更になることがあります。
- ・本授業は、「世界遺産検定」資格取得につながる講義を行うものではないので、検定対策は行わない。検定対策については学内の「資格講座」（エクステンションセンター）を利用すること。
- ・講義の理解を深めるため、講義テーマと連動する動画を視聴することがあり、欠席者は視聴できない。
- ・授業開始から30分までは遅刻として受講を認める。30分以上遅れての入室は欠席扱いとする。遅刻3回で1回の欠席扱いとし、欠席の累計が5回を超えると単位付与は行わない。

予習・復習

- ・予習：授業の最後に、次回の授業で取り扱うメインテーマやキーワード（関連する用語）を提示するので、それを予習として行った上で次回授業に望むこと。
- ・復習：毎回の授業では「授業内課題シート」を記載し提出する。それを確実に習得することを課す。前半・後半に分けて「理解度小テスト」を2回実施し、復習状況のチェックとし、単位評定に反映する。

評価方法

以下の3項目を数値化し、それに受講姿勢と習得状況を精査した総合評価とする。

- ・平常点（毎回の授業内課題シートの提出、予習課題の取組み） 50%
- ・理解度小テスト（前半・後半、2回実施） 30%
- ・最終課題レポート 20%

テキスト

- ・テキストの指定はしない。スライドを準備し、必要に応じてプリントを配布する。